



力を合わせ、組上げる秋(姉妹都市交流イベント)

2026
11

まちのスケジュール

■教育 ■健康・保健 ★文化・体育 ◆その他

1 日	
2 月	
3 火 文化の日	◆ 来島地区文化祭&ハイブリッドコンサート(来島交流センター)
4 水	
5 木	
6 金	
7 土	■ 来島小学習発表会
8 日	
9 月	
10 火	◆ 行政相談(保健福祉センター)
11 水	■ 交流体験学習(東京)〈～13日〉 + オレンジカフェ(交流センターとんぼら)
12 木	
13 金	■ 赤名小学習発表会
14 土	■ 学習発表会(頓原小・志々小)
15 日	■ しまね家庭の日 ★ 谷地区出土埋蔵銭講演会(来島交流センター) ■ 英語でおはなし会&クッキング(来島交流センター)
16 月	+ 乳がん検診(保健福祉センター)
17 火	+ 健康にいい～にやん週間(～23日) + オレンジカフェ(赤名福島邸)
18 水	+ 5歳児健診(保健福祉センター)
19 木	
20 金	
21 土	
22 日	
23 月 勤労感謝の日	
24 火	
25 水	
26 木	★ きじま里山講座「鉄穴流し跡」(来島交流センター) + 食生活改善推進員養成講座(保健福祉センター)
27 金	+ オレンジカフェ(つが工房) ◆ はびこ無料結婚相談会(役場本庁舎)※予約制
28 土	+ オレンジカフェ(上赤名会館)
29 日	
30 月	◆ 国民健康保険料納期限・後期高齢者医療保険料納期限
〈毎週火・水・金曜日〉 + ほっと。Café(来島保健センター)	

町の人口 4,170人(前月比-12人) 世帯数1,970戸 R8.10.1 現在



思い深い全国高総文祭(平成19年)。飯南高に赴任中、雪道で車を押してもらうなど、地域の人の温かさにも触れたといいます。「居心地が良く5年間もいました」と岡藤さん。飯南高校で出会ったご主人とも、当時の思い出話に花が咲くそう。

「これまでの教え子たちを思い返す時、一番多く顔が浮かんでくるのは飯南高校の生徒たちです」と話すのは、高校教諭の岡藤寛恵さん(52歳)。平成17年度から5年間、飯南高に勤務しました。「人懐っこく、素直で一生懸命な生徒が多かった」と当時を思い出します。

岡藤さんは、今や全国大会に度々出場する報道部の創立にも携わりました。きっかけは、平成19年に開催された全国高等学校総合文化祭島根県大会。飯南高新聞部が総合司会を務めることになり、放送部の指導経験がある岡藤さんがアナウンス技術を指導。発声や原稿読みの特訓を重ねた生徒たちは、見事大役を果たしました。

「せっかく磨いた技術を試してみよう」と挑んだ同年の県高校放送コンテストでは、初出場で全国大会への切符を獲得。

この快挙を機に、「新聞部」はアナウンスや映像制作に取り組む「報道部」と生まれ変わり、のちに全国優勝を果たすまでに成長を遂げていきます。

「大会の前に、休日や夜遅くまで生徒と練習に打ち込んだことが一番心に残っています」と岡藤さん。共に苦勞したからこそ、かけがえのない思い出です。

「今も教え子たちの活躍を目にするたび本当にうれしい」と話す岡藤さん。全校生徒の顔がわかる距離の近さは、そのまま一人ひとりの濃密な思い出となり、今も胸に刻まれています。

「ルーツいいなん」63

このまちに住んでいようと、なからうと、ルーツをたどれば飯南町。生まれや育ちは違っても、飯南町に縁やゆかりがある。そんな人たちを紹介します。今回登場した人が次の人を指名。つながり続くよどこまでも。

あの日の笑顔が、今も胸に



おかふじ ひろえ
岡藤 寛恵 さん
(旧姓:高野)

平成17年度～21年度まで飯南高校に勤務。専門教科は国語。飯南高校報道部の設立に携わり、初代顧問を務める。現在は江津工業高校に勤務。

今日の表紙

佐見地区では、姉妹都市伊丹市との農村体験交流を長年続けています。慣れた様子でヨズクハデに登るのは、農村体験交流に何度も参加している大学生。足元では初参加の男の子が、一生懸命に稲わらを運びます。世代を超えて受け継がれる温かな交流の輪が、また次の未来へと繋がっていきます。(5ページに関連記事)



飯南町公式SNS

スマホで
広報誌を
読んでみ
ませんか
マチイロ